

■はじめに

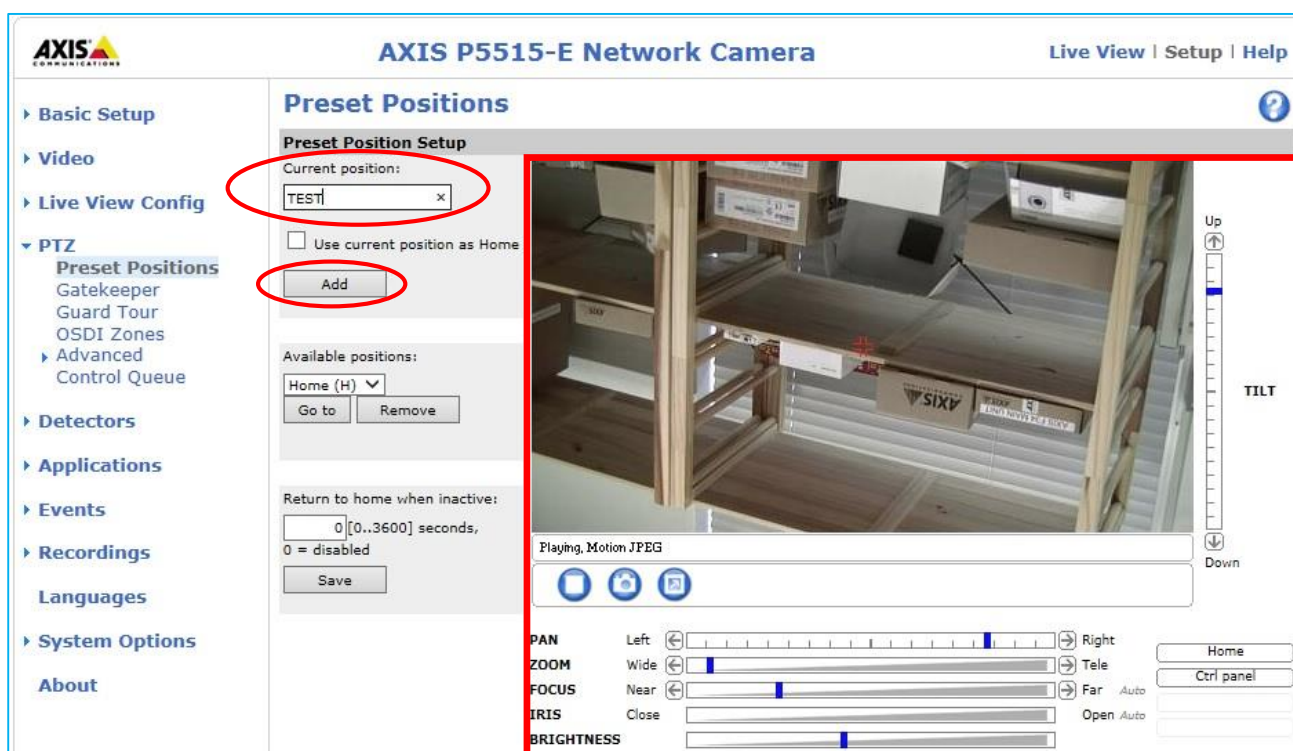
本手順書では、AXIS 製固定カメラ（バージョン 5.5 x 以降）が動体検知をしたときに、連動して別の Axis 製 PTZ ネットワークカメラを任意のプリセットポジションへ向けるための設定について説明しています。

■設定手順

手順 1 : PTZ ネットワークカメラにプリセットポジションを登録する

固定カメラ側で動体検知があった時に、PTZ カメラを向ける位置を、「プリセットポジション」としてカメラへ登録します。

1. Internet Explorer などの Web ブラウザを起動します。
2. Web ブラウザの URL 入力欄に、PTZ ネットワークカメラの IP アドレスを入力して Enter キーを押します。
3. Live View ページ右上の「Setup」リンクをクリックします。
4. 「PTZ(または PTZ Configuration または Dome)」-「Preset Positions」をクリックします。
5. 表示された PTZ コントロールバーを利用して、プリセットポジションとして登録したい位置へ PTZ ネットワークカメラを向けて、ズームの状態を調整します。
6. 「Current Position」欄に、位置を登録する際の名前を任意で入力します（使用可能な文字は半角英数のみです。）
7. もしもこの位置をホームポジションに設定する場合は「Use current position as Home」にチェックを入れます。
8. 「Add」ボタンをクリックして位置を登録します。



固定カメラの動体検知を利用し、PTZカメラを任意のプリセットポジションへ移動させる方法

※参考: プリセットポジションへ移動後、指定した時間でホームポジションへ戻すには

ファームウェア v4.48 以降の PTZ ネットワークカメラでは、ホームポジションを登録してある場合、PTZ 動作でカメラの向きが変わったあと指定した時間でホームポジションへ自動的に戻るよう設定できます。

前述の手順でホームポジションを登録しますと、Preset Position 画面に「Return to home when inactive」というオプションが現れますので、PTZ 動作後ホームポジションへ戻るまでの時間を秒で指定してください。(デフォルトでは 0 が設定されており、機能は無効になっています。)

Preset Positions



手順 2 : AXIS 製固定カメラに動体検知の設定をする

Setup 画面の「Detectors」-「Motion Detection」ページにて、動体検知を設定するウィンドウを作成します。

1. 右のツールバーより「New」ボタンをクリックし、ウィンドウを新規作成します。
ウィンドウの名前は、「Windows Name:」欄を編集することで任意の名前に変更できます。
※初期設定では[0]Default Window
2. ウィンドウの右下をクリックしたままドラッグもしくは、ウィンドウタイトルをドラッグし、検知ウィンドウのサイズや位置を調整します。
3. 右のスライダーを使って、Object Size (ウィンドウの大きさに対する検知対象のサイズ)、History (検出 時間)、Sensitivity (感度) を調整します。以下が設定の目安です。

固定カメラの動体検知を利用し、PTZカメラを任意のプリセットポジションへ移動させる方法

パラメータ	Object size	History	Sensitivity
説明	ウィンドウの大きさに対して、どの程度の変化を検知するかを設定します。	検出時間を設定します	明るさの違いによる感度を設定します。
高レベル(100)	Activityウィンドウの黒いライン(検知ライン)が上に上がり、画面内の大きな変化で検知するようになります。	1回の動きに対して比較的長い時間、動きがあったことを検知し続けます	光に対する反応が敏感になります。普通の背景で色のあるものが検知対象となります。
中レベル(50)	—	—	ある程度大きな輝度の違いが検知に必要なようになります。
低レベル(0)	Activityウィンドウの黒いライン(検知ライン)が下へ下がり、画面内のわずかな変化でも検知するようになります。	画面内の動きが止まるとすぐに検知しなくなります	光に対しての反応が鈍くなり、暗い背景の、非常に明るいものだけが検知の対象となります。

注意：

- ・ネットワークカメラの画像を回転させて表示した場合、モーション 検知ウィンドウは回転しないまま表示されますが、検知ウィンドウは被写体に対して、指定した場所通りに動作します。
- ・モーション 検知ウィンドウの縦横のサイズは8ピクセルで割り切れるサイズに自動調整されます。
- ・モーション 検知ウィンドウを作成する場合は、大きなウィンドウを一つ作成するよりも、小さいウィンドウを複数作成して動きを検出するようにしてください。

4. 設定が完了しましたら「Save」ボタンをクリックし保存します。

手順3：AXIS製固定カメラにHTTPコマンドの送信先情報を登録する。

1. 「Events」 - 「Recipients」を開きます。
2. 「Add」をクリックします。
3. HTTPコマンド送信先に関する情報を登録します。

Name

送信情報の名前を任意で設定します(半角英数)。

Type

HTTPを選択します。

URL

以下のコマンドを記述します。

http://PTZネットワークカメラのIPアドレス/axis-cgi/com/ptz.cgi

User name

PTZカメラへアクセスするためのユーザーネームを入力します

※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は2015年11月現在のものです。

固定カメラの動体検知を利用し、PTZカメラを任意のプリセットポジションへ移動させる方法

Password

PTZカメラへアクセスするためのパスワードを入力します。

※このほかに、PTZネットワークカメラの間にプロキシが存在する場合は、Proxy address、Proxy Port、Proxy user name、Proxy passwordを設定してください。

4. 「Test」をクリックすることでHTTP送信テストが可能です。

Recipient Setup

Name: PTZ.cgi 任意の名称 (半角英数)

Type: HTTP HTTP を選択

URL: http://192.168.79.102/axis-cgi/com/ptz.cgi HTTP コマンドを記述

Login Credentials

User name: root 送信先 PTZ カメラのユーザーネーム、パスワードを入力

Password: ****

Proxy settings プロキシを使用している場合はチェック

Test

Test the connection to the specified HTTP server Test HTTP コマンドの送信テストをする場合はクリック

Close

5. 作成した送信先情報は送信先一覧で確認が出来ます。

AXIS M1144-L Network Camera Live View | Setup | Help

Recipients

Recipients List

Name	Type	Address	Upload path	User name
PTZ.cgi	HTTP	http://192.168.79.102/axis-cgi/com/ptz.cgi	-	root

Buttons: Add... View... Copy... Remove

※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は2015年11月現在のものです。

手順 4 : AXIS 製固定カメラにイベントを登録する

続いて、固定カメラに動体検知をトリガとして PTZ カメラにコマンドを送信するためのイベントを登録します。

1. 「Events」-「Action Rules」ページを開き、「Add」ボタンをクリックします。
2. 「Action Rule Setup」ページが開きますので、以下の項目を必要に応じて設定します。

Enable rule

本ルールを有効にするにはチェックを入れます。

Name

ルールの名前です。半角英数で任意の名前を設定してください。

Trigger

利用するトリガーを選択します。

「Detectors」、「Motion Detection」と選択し、次に手順 2 で作成したウィンドウを選択します。

「Motion :」ラジオボタンにて、動きがあった時をトリガーとする場合「Yes」に、動きが止まった時をトリガーとする場合は「No」にチェックを入れます。

Schedule

24 時間 365 日連続してイベントを実行する場合 :

「Always (No Schedule)」を選択します。

スケジュールを利用する場合はプルダウンから任意のスケジュールを選択します。

Additional conditions

トリガー条件を追加したい場合にチェックを入れ、トリガー条件を選択します。

イベントを実行した後、再びトリガーを受け付けるまでに待ち時間を設ける場合は「Wait at least xx:xx:xx before re-running the rule」に時間を指定します。

Type

実行するイベントの種類です。

「Send Notification」を選択し、つぎに「手順 3 で作成した送信先」をプルダウンから選択します。

Custom parameter

「Add」ボタンをクリックし、HTTP のパラメータを入力します。

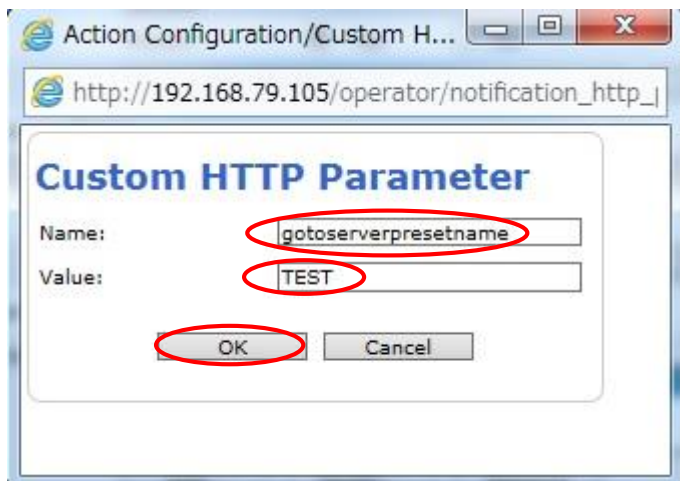
固定カメラの動体検知を利用し、PTZカメラを任意のプリセットポジションへ移動させる方法

「Name:」には、

`gotoserverpresetname`

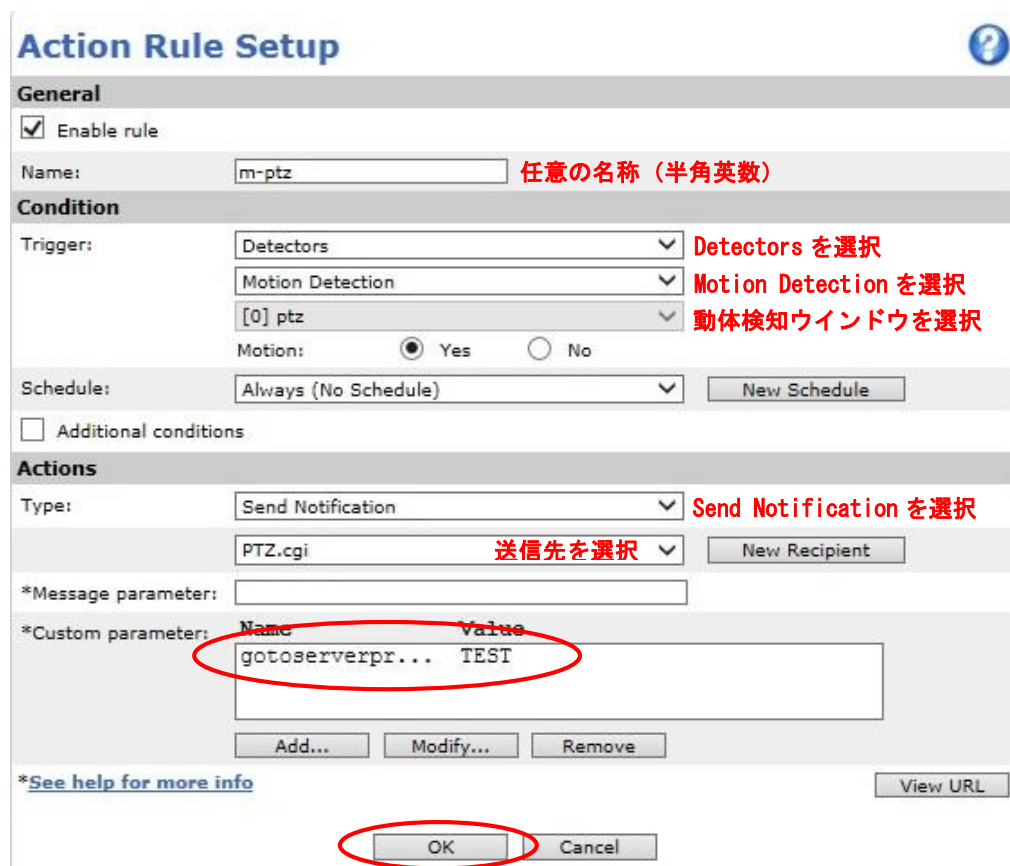
と記述します。

「Value:」には、手順1で作成したプリセットポジション名を記述し、OKをクリックし保存します。



作成したパラメータが Action rule に反映されます。

3. OK をクリックしてイベントを保存します。



Action Rule Setup

General

Enable rule

Name: 任意の名称（半角英数）

Condition

Trigger: Detectors を選択
 Motion Detection を選択
 動体検知ウィンドウを選択

Motion: Yes No

Schedule: Always (No Schedule)

Additional conditions

Actions

Type: Send Notification を選択

PTZ.cgi 送信先を選択

*Message parameter:

*Custom parameter:

Name	Value
gotoserverpr...	TEST

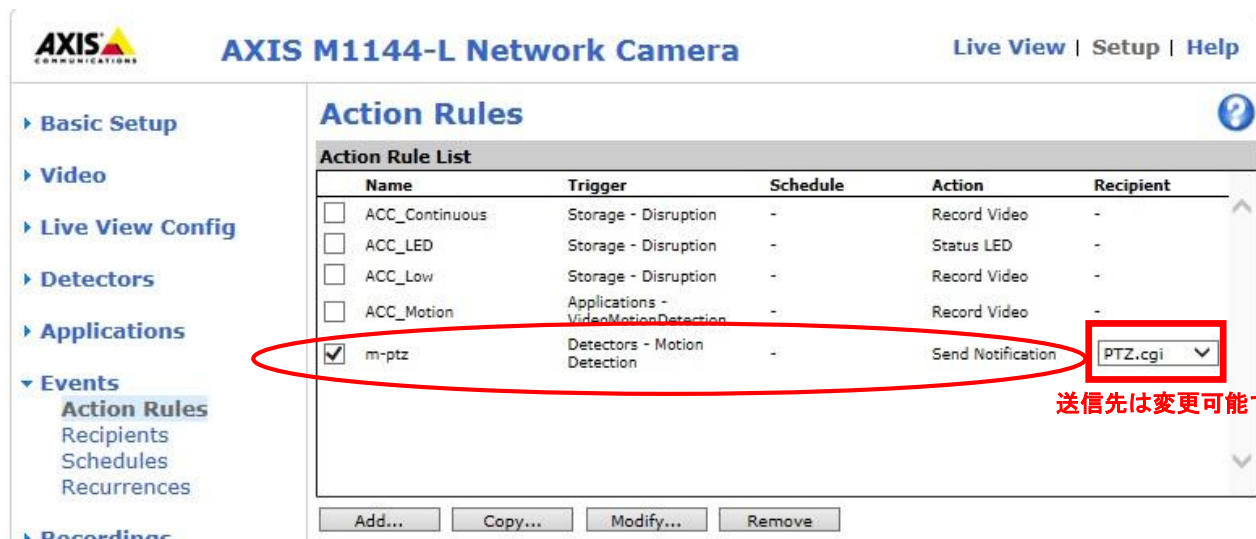
*See help for more info

固定カメラの動体検知を利用し、PTZカメラを任意のプリセットポジションへ移動させる方法

作成したイベントは、「Action Rules」の一覧に表示されます。

イベントの有効/無効はチェックボックスで行えます。

送信先を変更したい場合はRecipient プルダウンメニューから選択してください。



The screenshot displays the 'Action Rules' configuration page for an AXIS M1144-L Network Camera. The page includes a sidebar with navigation options like 'Basic Setup', 'Video', 'Live View Config', 'Detectors', 'Applications', 'Events', and 'Recordings'. The 'Action Rules' section is active, showing a table with columns for Name, Trigger, Schedule, Action, and Recipient. The 'm-ptz' rule is checked and highlighted with a red oval. Its recipient is set to 'PTZ.cgi', which is also highlighted with a red box. A red text label '送信先は変更可能です' is located below the dropdown menu.

Name	Trigger	Schedule	Action	Recipient
<input type="checkbox"/> ACC_Continuous	Storage - Disruption	-	Record Video	-
<input type="checkbox"/> ACC_LED	Storage - Disruption	-	Status LED	-
<input type="checkbox"/> ACC_Low	Storage - Disruption	-	Record Video	-
<input type="checkbox"/> ACC_Motion	Applications - VideoMotionDetection	-	Record Video	-
<input checked="" type="checkbox"/> m-ptz	Detectors - Motion Detection	-	Send Notification	PTZ.cgi

以上

※記載の内容は予告無く変更することがあります。記載の内容は 2015 年 11 月現在のものです。

アクシスコミュニケーションズ株式会社

